

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部美術館	平成28年度
記入団体名	川越百景絵画展実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越百景絵画展（一般の部&児童・生徒の部第3回展）	
協働事業の概要	<p>【事業目的】川越百景を多くの人に知ってもらおう</p> <p>【事業内容】市内外の成人および市内の小中学生に川越百景を題材にした平面作品を出品してしてもらい、審査の上選出された作品を展示</p> <p>【応募期間】平成28年11月8日（火）～18日（金）</p> <p>①学校経由：作品を担当の先生に提出し学校単位でまとめて美術館に搬入</p> <p>②個人応募：作品を直接美術館に搬入</p> <p>【会期】平成28年12月14日（水）～24日（日）ただし19日は休館</p> <p>【時間】午前9時～午後5時、ただし最終日は午後3時まで</p> <p>【会場】川越市立美術館2階アートホール（児童生徒の部）および地下1階企画展示室（一般の部）</p> <p>＜関連事業＞</p> <p>①緑陰写生会：8月21日（日）美術館集合、参加者28名（美術館6名、本丸御殿12名、北公民館前10名）</p> <p>②作品集の制作：平成29年2月に完成予定</p>	
協働事業の決算額	200,000円	円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年4月1日～平成29年3月20日	

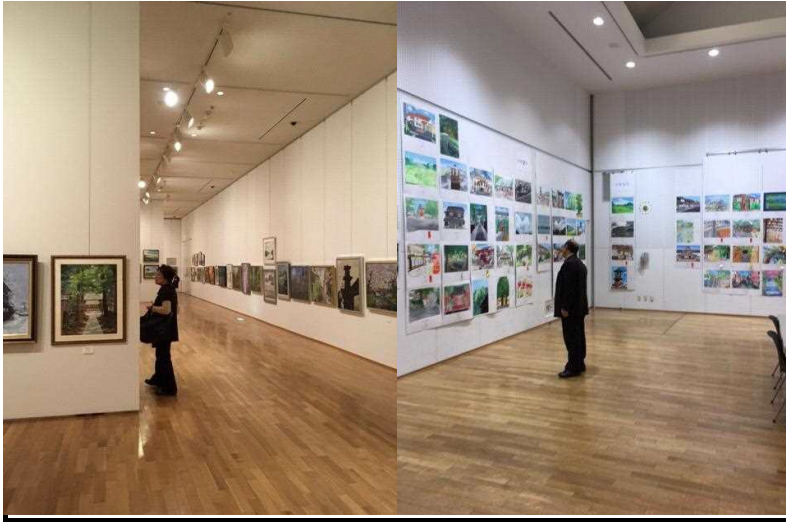
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	⑥

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35点
------	-----



「川越百景絵画展」の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

改めて振り返ると、第1回展の準備を始めた頃は、協働の歯車がうまくかみ合わず、互いの立場の理解、目標の共有が充分ではなかったように思う。話し合いを重ね、共に作業をし、少しずつ事業が軌道に乗って、第1回展を迎えた。実施してみると、予想以上に児童生徒や保護者、一般観覧者から好評を得た。このような規模の作品展では珍しい作品集の刊行も、色々な不備があったにせよ、喜ばれたことは間違いない。2回目からは写生会も実施、さらに3回目は一般の部も同時開催、当初は不可能だと思えたことが、一つ一つ実現していった。この事業に関わった方々の、労を惜しまず理想の実現を目指す熱意に、多くのことを学ばせていただいた3年間であった。

【市民活動団体等】

川越百景絵画展は児童生徒を対象に、未来を担う子どもたちに、外に出て郷土のすばらしい景色を思い切り描いてもらいたいとの思いで企画しました。当初、小学校低学年では写生は無理だから対象から外そうという意見もあり大変悩みましたが、大方の心配も、緑陰写生会などの効果と共に回を重ねるごとに消え、受賞作品も生まれ、頼もしい結果が得られました。

市内全小中学校に呼びかけ、回を重ねるごとに応募作品が増えてきたことには、関わってきたスタッフ全員嬉しく、児童生徒の意欲を強く感じて川越百景絵画展を進めてきてよかったと思えました。また、特別支援学級児童の作品も審査のうえ一緒に展示しました。独特の感性で描かれた作品は、心から楽しみ懸命に描いている様子が伺え、大変良かったと思います。子どもたちが外で元気に写生を続けることで川越の歴史や文化に触れることができます。出かけて描こう川越百景絵画展は今回で区切りとなりますが、このような企画が引き継がれていくことを願っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	7名	A
B	2名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

・作品のレベルが高くなり、出品数も多くなったように、学校・生徒の意欲の高まりが感じられました。制約があると思いますが、多数の学校に協力してほしいと願います。作品集、案内はがきも工夫されておりましたので、多くの人にこの事業を知ってもらいたいと思います。

・子ども達へ郷土愛を育み、自然の中で大人とともに活動するというのは本当に素晴らしく、3年間で終了してしまうのは非常にもったいないので、何らかの形で継続される事業になることを望みます。

・市民団体と行政が時間をかけながら一つの事業・目標を実施し、その成果を生み出すプロセスが素晴らしいと思います。第1回目から毎年改善が図られ、今年度は3年間の集大成のような美術展になったのではないのでしょうか。文化芸術の振興や生涯学習の面で大きな寄与があったように感じます。川越百景としての的を絞ったこと、緑陰写生会や一般の部、また特別支援学校の児童の参加を通じて、様々な交流も生まれたことと思います。

協働事業評価シート

部課名	福祉部生活福祉課
記入団体名	チームひだまり

平成28年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	生活困難家庭の青少年へ対する学習支援事業「ひだまり塾（I期）」	
協働事業の概要	<p>経済的困難のため高額塾に通えない青少年に、毎週土曜日、低料金で基礎学習を教える「ひだまり塾」を開催する。基礎学力をつけて自己肯定感を高めること、理解し支援する者がいる「居場所づくり」をめざしている。</p>	
協働事業の決算額	180,000円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年 6月4日 ~ 平成28年 11月26日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



ひだまり塾が行われている
コミュニティカフェひだまり

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回も昨年に引き続き協働事業ということで、協働事業として行っている。事業実施の結果として、子どもの学力の向上や居場所づくりはもちろんのこと、親同士の交流が深まり、親の居場所づくりにもなっているということが、今までにはない視点で非常に興味深かった。子どもの貧困問題は、子どもだけでなく、ある意味、親の貧困問題とも関わっていると思われるので、その支援にちょっとした居場所づくりも必要なことなのだと認識させられた。

【市民活動団体等】

子どもの貧困問題について“現在子どもが困っていること”を支援し、“将来にわたる貧困の連鎖を断つ”手立てとして、一番確実な支援が「学習支援」であると強く思い、2年間にわたり協働事業に提案し取り組んできた。川越市においても、従来の生活保護課担当学習支援事業の他に、2016年度から子ども未来部担当でひとり親家庭中学生に対する無料学習塾が始まったことはうれしく思う。

実際に学習支援に取り組んでみると、小学4年段階での躓きが大きいこと、中学生でも小4の躓きを引きずっていることがわかる。躓きは、学力低下を招き学習意欲や自己肯定感の低下を招き、不登校になるなど負の連鎖を生む元になるので、出来るだけ早い段階で解決することが望ましい。この考えの元、「ひだまり塾」は小学生に重点を置いて実施してきた。その結果、母子家庭の小学生が増えたこと、必要があることが分かったことは上記で述べたとおりである。

今、小学生から学習塾に行くことが当たり前になっている。学校でオチコボレにならないように親は必死の思いで学習塾に行かせている。しかし、これでは何のための公教育なのだろうか？川越市の学校教育のレベルは果たしてどれだけなのか、と、強い疑問も感じている。

貧困対策としてだけではなく、そもそもの公教育を充実させ「よき納税者を育てる」ことに本気で取り組んでほしい。学校教育部にこそ本気で立ち上がってほしいと切に願う。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	7名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に記載

【事業に関するコメント】

- ・教育環境の歪から生じた“学習塾”の存在、そして家庭環境に起因する子どもの貧困問題に立ち向かう姿に頭が下がります。
- ・貧困家庭における支援事業の形の一つでしょうが、これが最善な形式であるか考えると疑問が残ります。評価は非常に困難ですが、今後も行政とともに考えていく必要があります。
- ・指導者として大学生等の若い世代が関わり、また会報を発行することで、地域の世代間交流にもなっています。これからは“自分達の街は自分達で作る”意識が必要であり、地域の活性化・交流の面で全国に誇れる活動であると思います。これが川越市各地に広がることを望みます。
- ・学習塾に行けない貧困家庭の子ども達への学習支援および居場所の提供は非常に大切に、コミュニティカフェと相まって、ひだまり塾が三世代交流の場となれば、地域全体で連携することができると思います。
- ・子どもの貧困の問題はその親に起因することがほとんどで、行政は就労や技能習得支援などを行いながら貧困を解消することが必要であり、また三世代同居を進めるなどの対策も考えなければなりません。
- ・当団体の活動は埼玉県社会福祉協議会のフォーラムでも発表事例に選ばれています。協働事業に応募することで、子どもの貧困を“みえる化”する、行政に知ってもらえる意義も大きいと思います。活動の中で、様々な提言や状況分析がされているのでぜひ関係他課にもこの取り組みを市役所内で共有し、またモデル事業として他地域に波及してもらいたい。

協働事業評価シート

部課名	保健医療部 健康づくり支援課	平成28年度
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	プレママつながり事業	
協働事業の概要	<p>1)プレママとプレパパを対象に講座を企画・運営(全6回実施)</p> <p>○マタニティ・ヨガ&プレパパ教室+先輩家族、赤ちゃんとの交流会(2回実施)ママがヨガをしている間、別室にてプレパパに講座やワークショップ、パパ同士の交流。先輩パパママから体験談を聞きながら赤ちゃんに触れ合う</p> <p>○プレママ交流会(2回実施)プレママ同士が集い不安や悩みをワークショップを通じて話し合う</p> <p>○安産と母乳のはなし(2回実施)産前の過ごし方、産後の身体の変化、赤ちゃんとの生活や母乳育児のコツなどの講話</p> <p>2)産前産後の切れ目のない支援へつなげる。産前から地域へつながっているという安心感を得られ、産後の支援へとつなぐ。子育て支援情報の紹介</p>	
協働事業の決算額	50,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年6月23日 ~ 平成28年12月22日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



子育てサロンの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

2年間を振り返りながら、事業内容や会場選定を検討実施し、成果を上げることができた。市では実施できない部分を団体が実施することで、より産前・産後の切れ目のない支援の充実が図れた。

【市民活動団体等】

協働事業3年目を迎え、告知の拡大や、講座内容の充実をはかることを意識した活動をしてまいりました。プレパパ部屋でのワークショップでは、産後の生活を想像できるように工夫し、主体的に育児に関わる必要性について話し合うことで、プレパパ同士初めての出産を迎えるにあたっての不安な思いの表出する場となり、個の子育てからみんなで子育てする意識変化になったとのアンケートの回答が多くありました。これらの変化により、産後に家族で地域支援を得やすい環境となり、産前から産後への切れ目のない支援への一助になったのではないかと考えられます。一方で、「プレママ交流会」の回の参加人数の伸び悩みがありました。当事者視点から出産前からプレママ同士のつながりを求めていると予想していましたが、それはインターネットなどの情報により、情報過多となりプレママ同士の情報交換の必要性を感じる気持ちがプレママ自身から薄らいでいると感じました。しかし、参加された方のアンケートによると「本やネットでは分からないことを聞いた」や「気持ちを聞いてもらえて、プレママと話すことができ、不安が和らいだ」といった意見などもあることから、交流する場の必要性は感じられます。人間関係の希薄化が進む現代では、交流を躊躇したり、交流の代替で済ませられる傾向にありますが、子育ては、1人ではできないもので地域や仲間と一緒にみんなで子育てをすることで子どもを守り、ひいては母親、父親を守り育て、支援を循環させていく必要があると感じます。そのためにも、つながりを知る機会となる本事業を継続していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	8名	A
B	1名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

- ・現代社会に求められている事業であること、また目的を明確にし、可能な限り成果が上がる（例えばママだけでなくパパも対象とするなど）事業計画を策定し、実施している点が高く評価できます。
- ・地域のつながりが希薄となる中で、子育てへの不安、心配を抱えた人たちが集まりやすい環境を作り、交流の場を提供している素晴らしい事業です。今後もこの事業が長く続き、この事業の良さが多くの人に伝わることを望みます。
- ・川越市のキャッチフレーズの一つとして“安心して産み育てるまち、川越”が取り上げられるよう更なる活動の充実を期待します。それがきっかけで市の人口増加が繋がれば最高です。
- ・3年間でノウハウの蓄積ができたと思いますので、そのノウハウを地域に還元していただくと行政と地域が連携した子育て支援が可能になると思います。また、子育て支援関係の情報が纏まっていないので、それを整理することで、欠けている部分や手薄なところの充実ができると思いますので、ぜひチャレンジして頂きたい。
- ・この団体ならではの知見・キャリアが活かされている事業だと思うので、ぜひとも継続していただきたい。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 農政課	平成28年度
団体名	福原ファームクラブ	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	自然にやさしい福田田んぼ活動	
協働事業の概要	日本人の「食」を支える「田んぼ」に関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする事業。福田地区において、「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。 ○ 7月10日(日) 田んぼオリエンテーリング・田んぼ観察会62名 ○ 9月25日(日) 稲刈り・収穫祭98名 ○ 10月 9日(日) 水路観察会6名(雨天のためレンゲの種蒔きは中止)	
協働事業の決算額	37,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年7月10日 ~ 平成28年10月9日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

- 評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	34.5 点
------	--------



稲刈りの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

子供たちは、稲刈りや生き物探しなど、普段はできない体験を通じて、田んぼや生き物の存在を、身近に感じることができたのではないのでしょうか。いずれ大人になった時、この時の経験が、自然や農地の大切さに気付く上で、重要なものになってくるのではないかと思います。

また親子が共になって、一生懸命稲を刈ったり、魚や蛙を捕まえることで、家族の絆を深めることができたのではないかと思います。

【市民活動団体等】

3年目となり、早目に活動が開始できたため「虫の観察会」は多様な虫が観察出来て大きな1つの目的が達成されました。

今年は天候不順で、稲刈りの時期に雨が多く、予定していた田んぼでの稲刈りが出来ませんでした。農業従事者が同じような田んぼを用意してくれたので、無事に稲刈りは終わりましたが、足元が非常に悪く、参加者の方達は苦戦していました。1年目が今年の状態だと、広がりはなかったかもしれません。

「虫の観察会」と共に、作業が終わってからの水路遊び、観察は人気で、子どもだけでなく親世代が熱心に虫・魚取りをしていました。水に入る、魚をすくう等の行動が、日常ではなくなっている現実を認識した上で、安全な田んぼを解放してくれる農業従事者と、事務的な動きの出来る人材を増やす必要があると思います。川越の農業従事者の高齢化が進んでいる状況で、川越市民が川越のお米を食べる重要性、継続性を検討して欲しいと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	8名	A
B	1名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

・川越の自然、農業とふれあいながら、自然に関する学習の機会も取り入れている点、そして農業に関わる社会の現状認識にもつながる点は高く評価できます。

・天候に左右される企画を通年通して粘り強く行う団体に敬意を表します。この事業は都市部と周辺の農村地帯を有する川越市の地理的特性を活かしており、年々自然へのふれあいが少なくなっている昨今の状況を考えると、素晴らしい体験事業であると思います。参加者も増加し内容も年々よくなっておりますので、ぜひ今後もエコツアー等と連携を図るなどの工夫等によって事業を継続していただきたい。

・田んぼが住宅地の近くにあるという、自然環境の良さ、そして川越産のお米が食べられるということを担当課は広く周知してほしい。観光ではできない川越の魅力アップにつながります。また、「次世代に残せる農業」を市民全体で考えることを行政は検討していただきたい。

協働事業評価シート

部課名	学校教育部 教育指導課	平成28年度
記入団体名	医療法人 愛和会 愛和病院	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	いのちの授業	
協働事業の概要	<p>市内の小学校を対象に出張授業の募集を行い、希望する学校に「いのちの授業」を実施する。学校の授業や家庭では伝えづらい「いのち」や「性」に関する話を助産師が伝える。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> お産の大変さ、産まれた我が子への愛を分かりやすく伝える“お産劇” 「生まれる」ということがどれほどの奇跡かという事、そして性についての正しい知識を助産師からレクチャーする（生徒参加型） 自分がどれほど愛されて生まれてきたか、親から子への愛のメッセージを代弁する“詩の朗読” <p><実施校></p> <ul style="list-style-type: none"> 川越市立牛子小学校他 市内7小学校で実施 	
協働事業の決算額	316,036 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年 7月 13日 ~ 平成29年 3月 1日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



授業の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

・本事業を行うにあたっては、所管課が各市立小学校に実施希望をとりまとめたうえで、実施校を選定し進めたが、直接、病院側にアポをとり交渉を行おうとした学校も数校見られた。そのような場合にも、病院側のご担当者が、細目に所管課に連絡を入れていただいていたので、混乱することなく事業を進められた。また、計画では、今年度は5校が実施する予定であったが、病院側の好意により、希望があった7校すべての学校で「いのちの授業」を実施していただくことができた。

授業を受けた子ども達の感想からは、「今ここにいられてよかった。生まれてよかった。」「お母さんとお父さんを大切にしていきたい。」等、自他の命を大切に生きていこうとするものが数多く見られた。また、参観した保護者も涙を流す姿が多く見られ、心に響く内容であったことが伺えた。このことから、本事業は、大変有益であり、愛和病院の皆さんには、子どもたちのために今後も継続して御協力をいただきたいと感じた。

【市民活動団体等】

本事業は実施団体である愛和病院にとって、日頃お世話になっている川越市への社会貢献活動的な側面も備えている。今回多くの学校へお邪魔して授業を行ったが、どの学校でも非常に満足いただけており、結果には手ごたえを感じた。

今後どのように実施していくか、愛和病院内での方向性を確認した上で、市と協議の上、お互いに良い形で進めていきたいと思う。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	7名	A
B	2名	
C	名	
D	名	

【事業に関するコメント】

- ・会場にいた子ども達は命の大切さ、自分が生まれてきたことに対して関心を持ち両親に対する感謝の意を公表していました。授業をご覧になった保護者も感動し、親子の絆が深まったと思います。このような授業は今後も必要ですので多くの学校で展開できることを望みます。
- ・対象が4年生のため、多様な受け取り方をすると考えられますので、その後のケア（補足の授業）があるとよいと思います。
- ・備品購入のみの予算に違和感を覚えました。例えば社会貢献活動の寄付講座等の形式にしたり、協働委託事業とするなど、今後の実施方法を検討してはいかがでしょうか。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	蔵と現代美術展実行委員会

平成28年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	「プレ・蔵と現代美術展2016」	
協働事業の概要	<p>「蔵と現代美術展実行委員会」は平成23年2月に設立され、その年の11月に「蔵と現代美術―響きあう空間展1回展」を開催し、その後24・25・27年と開催を重ね、今年平成28年11月「プレ蔵と現代美術展-2016-」を開催した。</p> <p>本来「蔵と現代美術展」はビエンナーレ形式を取り入れているため、今年は休みの予定であったが、参加メンバーの若返りと裾野の広がりを考慮して、今年平成28年に第5回展のためのプレと位置付けて、「プレ・蔵と現代美術展-2016-」を行った。</p> <p>期間や予算の面で本展の半分以下で行われ、コンパクトに納める予定だったが、結果は規模の拡大があった。しかし、反響も大きく、若い作家の参加などによりいろいろな可能性が見えて来ている。</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成 28年 11月 13日 ~ 平成 28年 11月 23日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	4	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	31 点
------	------



【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

本美術展は平成23年度から何度か開催されており、団体だけでも実施可能な事業である。本事業は、普段はなかなか入ること・見ることのできない個人所有の蔵空間の中に入れる機会となり、担当自身も楽しめた。会場所所有者も、期間限定で公開することについては歓迎しているところもあった。また、若い世代の作家の参加が見られ、新鮮な作品を歴史ある空間で味わうことができ、よかったと思う。このように、川越固有の場所に合わせて制作された美術作品の展示会を、市内外の方々にご覧いただく機会となり、本事業の開催主旨については、非常に素晴らしいものであると認識している。

【市民活動団体等】

蔵と現代美術展は、プレ展と本展を交互に行っている。プレ展は本展と比較して予算と期間を半分以下で開催している。プレ展はプレということもあり、若年層の取り込みや他いろいろな試みを行うことができる。故に、今回も来年の本展のシュミレーションや多くの可能性を試すことが出来た。

協働事業は、主にプレ展の開催時の時にお世話になっている。理由は、本展を行うには協働事業では予算が不足することと、県や国との助成と協働事業は同時に申請出来ないためである。

しかし、協働事業は小回りが利き、手続きも近くでし易いので、プレ展に向いている。来年の本展を終えた後の再来年には再びプレ展の開催を予定している。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

- ・蔵の街を美術という視点から見直す良い機会を提供しています。毎年開催には苦労があるかもしれませんが、可能な形で継続してほしいと思います。
- ・まちづくりには多様なアプローチの仕方がありますが、その一つとして芸術面からの展開があり、当事業もその一つとして位置づけられ、協働事業として当初の成果をおさめたと理解できます。
- ・展示された場所が広範囲であったので、観光客に川越を知ってもらう点でも効果があったと思います。どの作品も素晴らしいものでしたが、営業中の店舗のように、少し入りづらいところもあったので、その点は工夫が欲しいです。
- ・川越のまち・文化芸術を発信する素晴らしい協働事業になったと思います。特に観光ルートから外れた場所にある民家などにも交渉し、若手アーティストの発表の場としたところは、オーナーにとっても意識が変わるものだと思います。市民にとってもあまり知られていない川越をみる、アートに親しむ機会を提供してくれたことは大きく評価したいです。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
団体名	川越和楽器演奏クラブ「夕映え」

平成28年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

※2回目

協働事業名称	伝統「和楽器」演奏文化事業	
協働事業の概要	<p>普段接する機会が少ない室外での生演奏を通じて、国内外からの観光客及び地元市民に、情緒豊かな城下町川越の「和」のイメージアップを図ることを目的とする。</p> <p>○実施場所：蓮馨寺、菓子屋横丁、指扇トワーム、伊佐沼公園、ウェスタ川越</p> <p>○実施日：6/30(木)、7/16(土)、8/20(土)、9/10(土)、9/17(土)、10/29(土)、11/1(火)、11/19(土)、11/26(土) 計9回</p> <p>○観客数：約280人(9回)</p>	
協働事業の決算額	39,000円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年 6月30日 ~ 平成28年 11月26日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	4	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	3	3

合計点数	24 点
------	------



野外演奏の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回の協働事業では、昨年度からの発展型として団体側が他市において実績のある学校でのアウトリーチ活動の実践に向け協議を行ってきた。

結果として準備が整った際には年末近くになり、校長会等を通して広報したが、今年度は実施に至らなかった。

しかし、子どもたちにより分かりやすく、親しみやすく日本の伝統和楽器である尺八に触れてもらうためにという共通のテーマを持ち協議を進めることができ、来年度団体が協働事業を申請し、採択された際には早期の行動ができるように双方で確認し合うことができた。

野外での演奏会については会場施設側の協力はもとより、「演奏」という特性上、近隣の影響も多分に考える必要があることを改めて感じ、公の事業で自由に演奏していただける場の提供ができていたらと担当として力が足りなかったことを感じる部分もあった。

文化活動の推進に関しては各団体との協働・連携が必要であり、今後も団体との協力体制を継続していきたい。

【市民活動団体等】

小江戸川越に和楽器の音色を響かせ、城下町川越のイメージアップを図るという目的から、昨年度に引き続き、蓮馨寺をはじめとした市内各所で野外演奏を実施し、多数の観光客や外国人の興味を引くことができ、ある程度定着が見込める手ごたえが得られた。また、昨年度課題として浮き彫りになった天候不順に対する対応も、昨年の経験を踏まえてうまく対応することができた。、その一方で近隣から苦情受けたり、場所の制約があったりと野外活動の難しさを改めて感じたこともであった。

残念であったのは、計画していた学校における和楽器演奏講習が頓挫してしまったことである。所管課のサポートを得て校長会に参加し、提案をすることまでは漕ぎつけたが、最終的に学校側から手が挙がらなかったことは、非常に残念であった。

2年間協働事業として、所管課である文化芸術振興課のサポートを受けて事業を実施してきたが、協働事業であることの恩恵を感じるとともに、協働事業であることの難しさも感じてきた。今後については、相応しい事業の形を模索しながらパフォーマンスを行っていきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	1名	C
B	1名	
C	6名	
D	1名	

【事業に関するコメント】

・狙いは良いと思いますが、実現性が低く、現実に計画通りにいかなかったのは協働事業としての評価は厳しくならざるを得ません。実際に行ってみて初めて中止がわかるのは事業としてあってはなりませんし、予算と決算の相違が多いことも気になります。

・この2年間の事業実施で得た知見及び反省等をふまえ、事業を再検討し、日本文化・音楽の発展に寄与してほしいと思います。特に実現しなかった学校での和楽器文化授業が実施できるようなチャレンジを望みます。

協働事業評価シート

部課名	学校教育部 学校管理課	平成28年度
記入団体名	自立の家「つどい」	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

(2回目)

協働事業名称	東日本被災地の人達に、励ましカードを届ける巡回展	
協働事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理課を通じ、月例校長会に趣旨説明を行う。(7~10月) ・まつり会館休憩室で観光客に励ましカードの制作を呼びかけた。 ・『励ましカードを届ける展示会』を実施 実施日：11月3日(木)~7日(月) 場 所：ウエスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー ・「第5回『国境を越えて心と心をつなぐクリスマスカード』展示会」に参加 実施日：12月24日(土)~27日(火) 場 所：福島駅前「こむこむ館」2階 	
協働事業の決算額	83,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年7月 ~ 平成28年12月27日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	3	5	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	3	3	3
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	5	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	27点
------	-----



「励ましカード」
一例

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

震災から6年という児童生徒にとっては長い月日が経ち、日々の生活で震災の影響を感じることは少ない。そんな中で被災地へ再び心を寄せ、被災地や被災された方々に正しい認識を持つとともに、情操教育やボランティア意識の向上に繋げるという点で、意義のある事業であると考えている。

各学校の参加は約半数であったが、無理のない範囲でよく取り組んでくれた。また、自主的にオリジナルのメッセージカードを作成した学校もあった。

今年度は、事業者の希望で、新たに熊本県益城町へメッセージカードを送った。急な対応であったため、益城町教育委員会との連絡調整、作成する学校への情報提供等、業務が煩雑になりながら進めざるを得なかった。

カード等は、東北、熊本に確実に届き、メッセージが伝わっていると信じるが、参加した学校にとって疲労感のみが残ることがないように工夫をしていく必要がある。

【市民活動団体等】

時を重ねる毎に、被災地へ向けての大切なものは「心のケア」であるということが、数多く報道されています。何度か現地に赴いて痛切に感じました。金銭の援助は無理でも、それ以上に心に響く支援が出来たと思っています。

カードの受け取り先の反応も知りたいところでしたが、全国から7,000枚余りのカードが届けられていることから、不可能だと思いました。誠意を持って対応して下さいことを信じています。

川越での展示会最終日は県内私立高校の学生が無私な気持ちでメッセージを書いてくれました。もう一つ特筆すべきことは、お互いに進路に悩む市内中学3年生の生徒から福島の中3年生へ「菜」の裏に励ましのメッセージを書いてくれたことです。カードを受け取った方々がたくさん勇気をもらったことと思うと、この事業を行ってよかったとつくづく思いました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	2名	B
B	4名	
C	3名	
D	1名	

【事業に関するコメント】

別紙のとおり

【事業に関するコメント】

- 手作りの励ましカードは、受け取った人たちに勇気を与える作品でした。大変でしょうがこれからも未永く続けてください。
- 事業自体は価値のあるものと理解しますが、行政側の評価が相対的に低く、特に双方の立場については団体・行政とも「3」となっており、対話が満足でなかった点があるのではないのでしょうか。“ボランティア”も広い意味で「教育」の一つであると思いますので、もう少し行政側も評価してもよいと思います。
- 2回目の提案事業となりますが、改善点や小・中学生のカード制作の増加もあってよかったように感じます。しかしながら、発生から6年がたった現在の小学生の中には、被災地への思いは頭の中でのイメージするものでしかなく、ともすれば生徒の自主性が失われる可能性もあります。様々な障害があるでしょうが、小・中学生の代表が現地に赴き直接手渡しする等の交流できれば、双方に大変良い効果が生まれるのではないのでしょうか。
- 被災地にとっては、一方的に「励まされる立場」から次のステップへ進んでいるという声も聞こえるので、現地の現状もしっかり把握するように努めていただきたい。
- 活動の目的が安易に震災に結びつけている気がします。また、6年が経過した被災地で今何が本当に求められているのかを、再考すべきではないのでしょうか。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	川越市合唱連盟

平成28年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	川越市合唱連盟創立35周年記念演奏会	
協働事業の概要	平成29年2月12日(日)、本市のウェスタ川越大ホールにて、連盟所属の有志、一般公募の市民を合唱団の核に、川越少年少女合唱団、県立川越高校音楽部、県立川越女子高校、県立浦和高校グリークラブ、川越市パレ工連盟の協力のもとブローのオーケストラを招聘し「オペラの名合唱曲」を演奏した。一般の川越市民、近隣遠方より1500名の聴衆を集め実施した。	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年7月 ~ 平成29年2月12日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32 点
------	------



観客席の様子



舞台(フィナーレ)の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

・普段内部での活動を精力的に実施している団体が、市との協働により市民や外部団体と協力し合い一つの公演を作り上げたことに協働の成果が大いに表れていると感じます。

周年記念事業であり来年は実施の予定がないが、今回得られたつながりをもとに、既に次回に向けての活動に取り組みされており、演奏会本番がゴールではないことも感じられました。

初参加の市民・団員が一体となった練習や協力団体との協議、合同演奏など、市側も今後事業を進めるにあたって参考となる部分があり、今回の協働事業が相互にもたらしたメリットは多くあったものと考えます。

【市民活動団体等】

今回、協働事業として演奏会を行ったことは、合唱連盟が願っている「より多くの年代」「より多くの音楽・芸術団体」そして「より多くの一般市民」に合唱音楽の素晴らしさを伝えたいという希望を少なからず叶えられたという意味において、素晴らしい成果をあげることにつながったと考えられる。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	6名	A
B	3名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

老若男女を問わず満席になるほどの市民が足を運び、また、多数の団体が互いに協力し合いながら一つの作品を作り上げた演奏会は、料金以上の満足度があり、市民の音楽への関心を高めた演奏会であったと思います。

多数の団体を取りまとめること、また、多くの観客を集めることは多大な困難を伴いますが、担当課との連絡調整・情報共有を十分に図って事業を進めたことは、協働事業の最も望ましい形です。演者・観客双方ともこれだけ大勢の市民が関わる音楽会は、川越の文化芸術の振興や拡大に大きく寄与するものと思います。

今回は記念事業という形式でしたが、日常的な活動においても、市民の芸術や文化に対する意識を高められるような事業を展開することを期待します。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成28年度
記入団体名	尚美学園大学	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
(2回目)		

協働事業名称	「里山讃歌音楽祭」KAWAGOE2016	
協働事業の概要	<p>●吹奏楽と合唱を中心としたコンサートの開催 【日時】平成28年12月23日（金・祝）14:00～16:30 【会場】ウェスタ川越大ホール 【出演】尚美ウインド・フィルハーモニー、尚美学園大学合唱団、埼玉県立川越総合高等学校、埼玉県立川越南高等学校、OHSUMI&PRODUCE合唱団有志（市民参加）他 【曲目】レスピーギ「ローマの松」（川越南高校吹奏楽部・尚美ウインドによる高大合同演奏）、松山太郎「里山の怪異」（川越総合高校）、オルフ「カルミナ・プラーナ（抜粋版）」（尚美生・市民参加による吹奏楽と合唱） 他</p>	
協働事業の決算額	200,000	円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年7月1日 ～ 平成28年12月23日（音楽祭開催当日）	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	3	3.5

合計点数	28.5 点
------	--------



音楽祭の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- ・「里山」というテーマを設けた演奏会であったが、広報を行う段階でその魅力を十分に伝えることができなかった。
- ・アンケート結果で「里山」というテーマに興味を持って来た来場者も多く、そのような層を狙った広報の必要性を感じた。
- ・今回、文化芸術振興課から環境政策課にチラシ配布の協力を依頼した。本演奏会が里山をテーマにしていること、ファーマーズマーケットや武蔵野里山イニシアティブという団体と関係を持っていることから、農政課など本課以外にも深い関係をもつ部署があるように感じる。所管課を一つに限定せず、いくつかで分担することにより大きな成果に繋がる可能性を感じた。

【市民活動団体等】

- ・提案型協働事業として2年目の実施であったため、昨年度の反省や課題を踏まえ、担当課とも良好な連携関係の下、スムーズな実施・運営ができ大変感謝をしている。
- ・また、本年度は新たな協力校として、埼玉県立川越南高等学校吹奏楽部の参加も得られたり、男性や10~20代の来場者が増加するなど、年々、参加者・来場者共に裾野が拡がりつつあることを実感できた。
- ・また、本年度は、プロの音楽家の出演がなく、真に高校生と大学生及び市民の出演だけであったにも関わらず、演奏に対する評価が高く、「高校生と大学生の若さ溢れる演奏が素晴らしい」「瑞々しい演奏に感動した」といった温かな好評を得たことは主催者として大変嬉しいことであった。
- ・しかしながら、昨年度からの課題であった合唱の一般公募については、本年度も十分な形で実現することができなかったため、より開かれた音楽祭の実現に向けて、来年度の体制整備を図っていきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	2名	B
B	4名	
C	2名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- ・すばらしい音楽会でした。特に今年は高校の参加が一つ増えており、これぞ協働だと思えます。
- ・今後は、補助金の目的、行政の狙い、事業主催側の目的との整合性に注意し、計画当初から始めることが望ましいと考えられます。また、芸術の振興なのか、文字通りの里山賛歌なのか方向性が不明瞭に感じます。里山賛歌であれば小中学校にも働きかければ、より楽しいステージになると思いますし、一般の市民も参加しやすくなるのではないのでしょうか。
- ・「里山」へのボランティアを募集している団体もあるので、音楽祭とのコラボがあると大学の取り組みも広がりますので、検討してください。様々な制約があるかと思いますが、若い世代の育成のよきリーダーに大学になってほしいと思います。

協働事業評価シート

部課名	福祉部 障害者福祉課	平成28年度
団体名	特定非営利活動法人あいアイ	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> (2回目)
-------	-------	---

協働事業名称	川越の街を描く（1, 2, 3、散歩下を向いて歩こう）		
協働事業の概要	○作品制作参加者の一般公募（5月～9月頃） ○一般参加者とともに川越のマンホールを描く（8月～9月までの第2・4土曜日） ○「下を向いて歩こう」展示会の実施 日時：10月13日(木)～16日(日) 会場：川越市立美術館1階（市民ギャラリー） 展示内容：川越市街のマンホールを中心とした絵画作品30点を立木の上に乗せ、床に展示 ○川越百景絵画展への出品（約20名が入賞）		
協働事業の決算額	200,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成28年7月 ～ 平成28年12月		

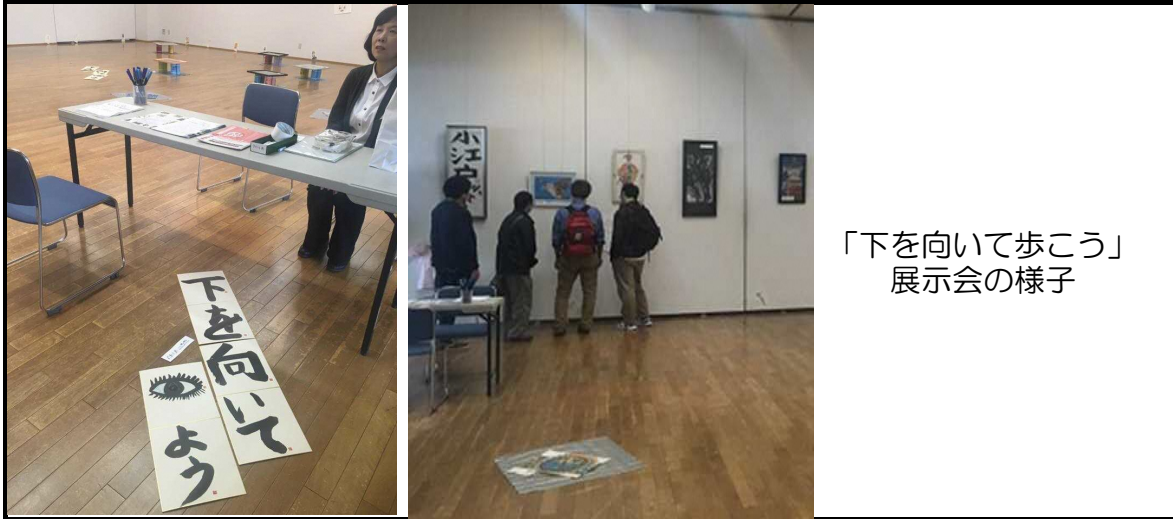
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	2	2	2
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	1	2	1.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	2	2	2
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	2	5	3.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	1	2	1.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	2	3	2.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	2	4	3

合計点数	16 点
------	------



「下を向いて歩こう」
展示会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

事業については非常に意義を成すものであったが、協働の視点に欠けており、また、どの部分での協働を求めての事業であったのか疑問が残る内容でした。

今後、協働における事業を実施するのであれば、計画性と実効性に富むものであることを望みます。

【市民活動団体等】

川越市との協働ということ、展示会の趣旨（年齢、性別、国籍そして障害の有無を問わず創造活動し、その成果をもって障害者の自立の一助とする）の理解が得られました。

また、当団体の事業目的の一つである障害者の自立の一助とするため、展示会の実施の周知を市広報への掲載にとどまらず、企業へ直接出向いてチラシを渡すなど積極的な活動を行ったことで、飲食業の際コーポレーションやギフト事業の仲山商事などから作品依頼が相次ぎました。

川越百景絵画展へも出品したところ、20名弱が入賞し、入賞者から「来年度は市長賞を狙いたい」など意欲的な声があがりました。また、他の出品者や絵画展実行委員会との交流もできて非常によかったと思います（今年度で終了とのこと非常に残念です）。

ポケットパークでの発表は、夏場で暑かったことから今年度での実施を見送りましたが、来年度は暑い時期は避けて秋にできるよう計画していく予定です。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	1名	B
B	5名	
C	2名	
D	1名	

【事業に関するコメント】

障害者の自立を促し、障害者への理解を深めるという事業の目的・内容は非常に明確で素晴らしいと思いますが、協働事業として“協働”の視点が欠けていたと思います。

実施団体はさまざまな部署と関係を持っていると思われるのですが、川越市の協働事業ですので市の担当課（障害者福祉課）と話し合い、情報交換・共有を図ることが重要です。話し合いを通じて、相互理解を深め事業を行っていただきたいと思います。

また、収支決算書において予算と決算で内容が大きく変わっている箇所が複数見られましたので、予算を決める段階から、各項目を精査することが必要です。